

## 第9回 平成13年度 受賞者

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第1類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

**山鹿灯籠まつり実行委員会（熊本県山鹿市）**

地域伝統芸能大賞 活用賞（第2類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

**城端むぎや祭協賛会（富山県城端町）**

地域伝統芸能大賞 支援賞（第3類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

**五十嵐 藤二（山形県飯豊町）**

地域伝統芸能大賞 地域振興賞（第4類）：その他特に顕著な貢献のあったもの

**長浜曳山祭総当番（滋賀県長浜市）**

## 受賞者 プロフィール

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第1類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

**山鹿灯籠まつり実行委員会（熊本県山鹿市）**

熊本県山鹿市の山鹿灯籠まつりは、約1300年前景行天皇筑紫巡行の際、山鹿の民が松明によって奉迎したのが起源の1つとされている。そもそも松明を神社に奉納する習わしが、室町時代を境に和紙の伝統工芸山鹿灯籠献灯に姿を変え、今に至っている。

毎年8月15日、16日には前述の華麗な造り物である大灯籠が大宮神社に奉納される。これと共に女性たちが和紙製の灯籠を頭に掲げて火を燈し、「よへほ節」に合わせて優雅に踊る山鹿灯籠踊りが始められ、近年大変人気を集めている。

祭り期間中には30万人以上の観光客を呼び、熊本県の代表的な祭りの1つとなり、山鹿灯籠踊りは中国、オーストラリアを始め国内外で広く公演を行っている。

山鹿灯籠まつり実行委員会は、それぞれの事業区分に沿った組織が形成されており、山鹿灯籠まつりの執行は言うに及ばず、上記のように年間を通じて活発かつ着実な活動を行っている。



地域伝統芸能大賞 活用賞（第2類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

**城端むぎや祭協賛会（富山県城端町）**

城端町は富山県の南西部、砺波平野の南端にあり、峠を隔てて五箇山と接している。約800年前平家の落人が都を追われて各地に離散した時、五箇山にも住みついた。麦屋節はその落人たちが都での往時を偲んで唄い踊ったのが始まりと言われている。哀調を帯びた旋律と風格ある踊りは五箇山地方一帯に広まり、富山県の代表的な民謡のひとつとして全国的に著名である。

城端むぎや祭はこの民謡を祭典に活用し保存普及を図るため、城端神明宮の秋祭りが行われる9月16日を核に昭和26年第1回目を開催し、以降毎年9月15日、16日に実施、昨年は50回を数えるに至っている。

この間、城端むぎや祭協賛会は祭開催の主体として、町内関係団体や周辺市町村の麦屋節関係保存会等との広域的連携を取り、県内マスコミとのタイアップも図りながら企画、運営し、今日の盛大な祭りを築いて来た。また、同会はむぎや祭のブランド商品や町の土産品開発のきっかけ作りをするなど、約6万人の同祭集客と相俟って地域の商工業振興にも大いに貢献している。



地域伝統芸能大賞 支援賞（第3類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

**五十嵐 藤二（山形県飯豊町）**

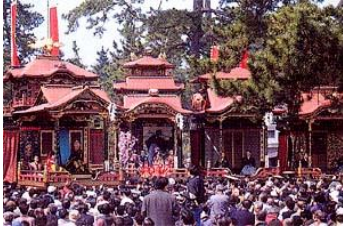
山形県の南部、西置賜（にしおきたま）地方に伝わる獅子舞は主に「黒獅子」と称され、大きな獅子頭につけた約10メートルの大幕の中に30人近くの男たちが入り、祭り囃子に合わせて激しく舞う。

飯豊町在住の五十嵐藤二氏（75才）は17～18年前師子頭に魅せられ、農業から転じて以降獅子頭作りに精魂を傾けて来た。獅子頭は彫り、磨き、塗りの三行程を経てたてがみと髭が付けられ完成するが、乾燥期間を含めると小さいものは3年、大きいものになると5年を要するという。また、創作だけではなく神社から補修の依頼もあり、このときは仕上げの漆塗りの行程も一人でこなしてしまう。

下絵を一切用いずに、ノミ一丁で彫る技法は専門家の高い評価を得ており、氏が製作した獅子頭（黒塗りは雄獅子、赤塗りは雌獅子）は西置賜地方を始め、米沢市など十以上の神社に奉納されている。



## 長浜曳山祭総当番（滋賀県長浜市）



長浜市は、滋賀県東北部に位置する琵琶湖畔の美しい都市で、人口6万1千人を有している。四百数十年前、羽柴秀吉（後の豊臣秀吉）が、ここに戦国の居を構えまちを築いた。

長浜曳山祭りは、長浜八幡宮の祭礼として、4月9日から4月17日まで伝統の行事が執行され、4月15日の本日には、子供歌舞伎（狂言）を見ようと多くの観光客で賑わう。祭りの起源は、秀吉が男子出生を祝って町衆に金子（きんす）をふるまい、町衆がこれに応じて曳山を造営したものと伝わっている。

祭りの形態は、四畳半の曳山の舞台上で小学生が名演技を繰り広げ、亭（ちん）と呼ばれる階上で子供たちがシャギリを囃す。子供歌舞伎が演じられる曳山は12基あり、輪番で毎年4基ずつ出場する。

長浜曳山祭総当番は祭り全般を司るが、祭り裏方三役（振付、太夫、三味線）の地元養成や小学校での歌舞伎教室の開講など、祭り保存伝承のための環境づくりに努力してきた。長浜市は、この町衆パワーをまちづくりに活かそうと、平成12年度に曳山博物館を建設。官民一体となった取り組みが注目を集めている。